



## 「ニッケ城下町加古川？」

ニッケパークタウンの西側に2017年加古川メディカルセンターが開院する予定で、目下急ピッチで工事が行われています。新病院は病床計603床で、新設も含め28診療科を設ける予定です。工事が始まるまでは、日本毛織加古川工場（写真）が存在していました。現在、操業しているのは、加古川西側の日本毛織印南工場です。

第1回アテネオリンピックが開催された明治29(1896)年創業の日本毛織株式会社は神戸に本社を置き、加古郡加古川町(現加古川市加古川町寺家町)に工場を建設しました。当初は明石郡明石町茶園場に建設する



予定で整地工事まで着手していましたが、明治30(1897)年、敷地に近接する明石城址が御用邸の候補地として選定されたため、工場を設けることはふさわしくないとして、水質が我が国の河川中一、二位を争う軟水で鉄分も低く、水量も豊富な現在地が選ばれたということです。

日露戦争後、軍を中心に毛織製品の需要が増大するに従い、明治40(1907)年には国鉄加古川駅構内より同社工場構内へ専用の引き込み線を設けています。さらに明治41(1908)年には敷地を東に拡張し、第2工場を増設、同44(1911)年、第3工場増設した。その後、第一次世界大戦の好景気でさらなる発展を図り、大正5(1916)年、第4工場増設、同6(1917)年、第5工場増設、同8(1919)年、第6工場の増設を行っています。

印南工場は世界水準の近代的工場をめざして、大正8(1919)年6月に印南郡米田村(現加古川市米田町船頭)に建設されました。施工は中島組と山本組が行った。同9(1920)年7月には、印南工場と加古川工場をつなぐ同社専用の軽便鉄道加古川鉄橋が建設され、トロッコによる両工場間の輸送が行われました。加古川にその橋脚の基礎の痕跡をみることができます。

加古川駅玄関先である地域が大きく変わる転換期に、われわれは立ち会っています。今後が楽しみの加古川の姿を生徒ともども見守っていただければと思います。

ぶらり加古川第7号

平成27年7月